

愛知県のロボット製造業について

最近、労働力人口の減少問題などにより、人間の仕事を代替できるロボットに注目が集まっています。そこで、今回は愛知県のロボット製造業についてみてみたいと思います。

ロボット製造業とは、自動車や建設機械の溶接・塗装、電気製品の組立て、部品の輸送などを行う産業用ロボット、及び、掃除や留守番、警備、受付などのサービスを提供するロボットであるサービス用ロボットを製造する事業所をいいます。

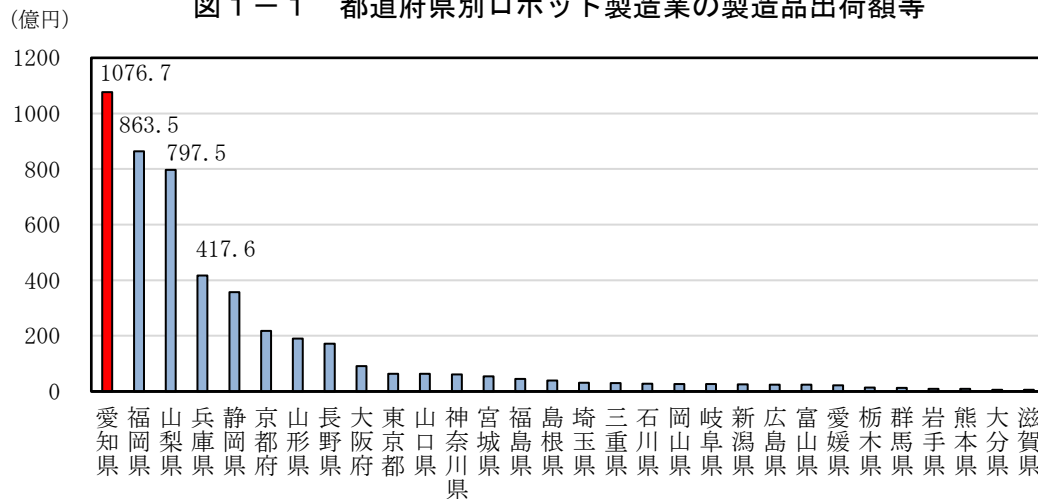
○ロボット製造業の製造品出荷額等

公表されているデータで最も新しい平成 26 年の都道府県別ロボット製造業の製造品出荷額等についてみてみます。

愛知県のロボット製造業の製造品出荷額等は約 1076.7 億円で、全国の中で最も高い額でした。愛知県に次いで製造品出荷額等が高かったのは、福岡県(約 863.5 億円)、山梨県(約 797.5 億円)、兵庫県(約 417.6 億円)の順となりました。(図 1-1)

都道府県別の製造品出荷額等の割合では、上位 3 県で全体の 5 割以上、上位 5 県で全体の 7 割以上を占めていることがわかります。(図 1-2)

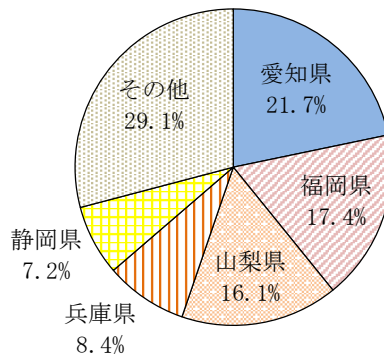
図 1-1 都道府県別ロボット製造業の製造品出荷額等



注意：「データなし」または「秘匿」扱いとなっている都道府県を除く

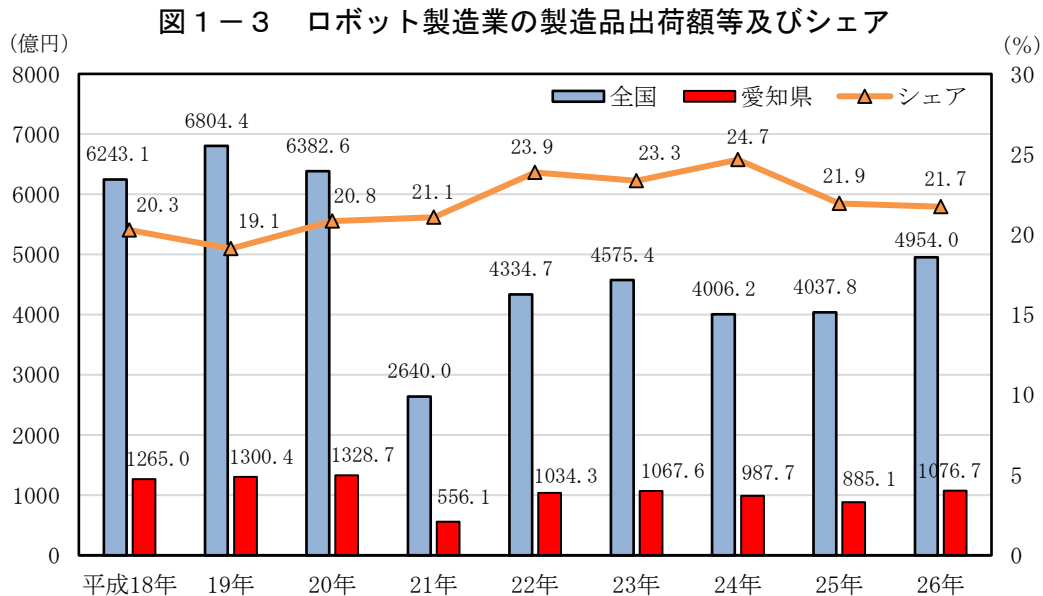
資料：経済産業省「平成 26 年 工業統計調査」

図 1-2 都道府県別ロボット製造業の製造品出荷額等の割合



資料：経済産業省「平成 26 年 工業統計調査」

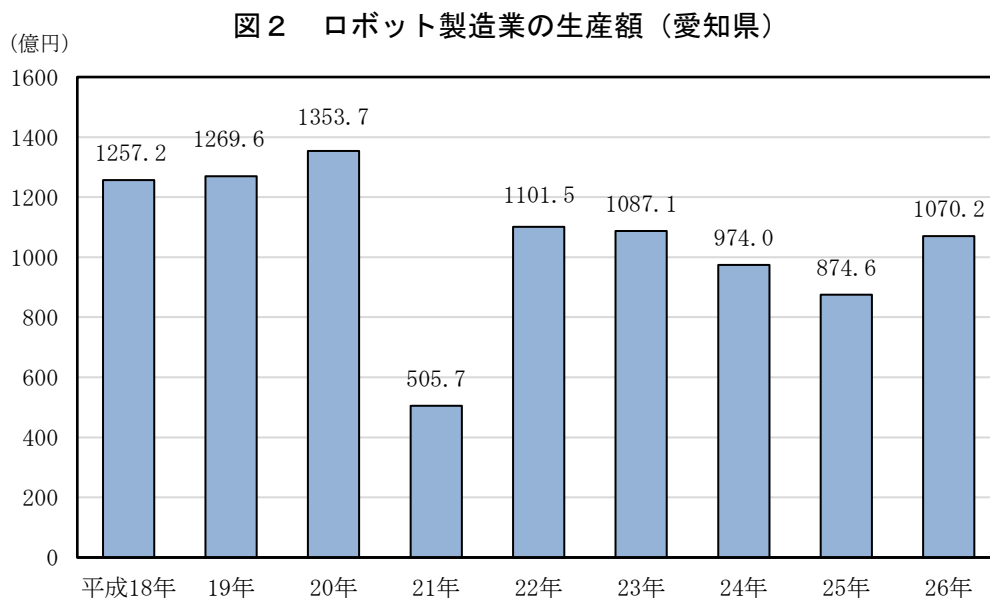
平成 18 年以降の製造品出荷額等の推移をみてみます。愛知県の製造品出荷額等は 20 年までは増加していましたが、21 年にはリーマンショックによる景気の影響で 556.1 億円と大きく落ち込みました。そこから 23 年にかけて持ち直しつつあったものの、24 年、25 年は 2 年連続で減少しました。26 年には再び増加に転じています。また、愛知県の製造品出荷額等の全国 4 シェアの推移についてみてみると、18 年以降、愛知県のシェアは 20%前後で推移しており、全国トップのシェアが続いています。(図 1-3)



資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「平成 24 年 経済センサス活動調査」

○ロボット製造業の生産額

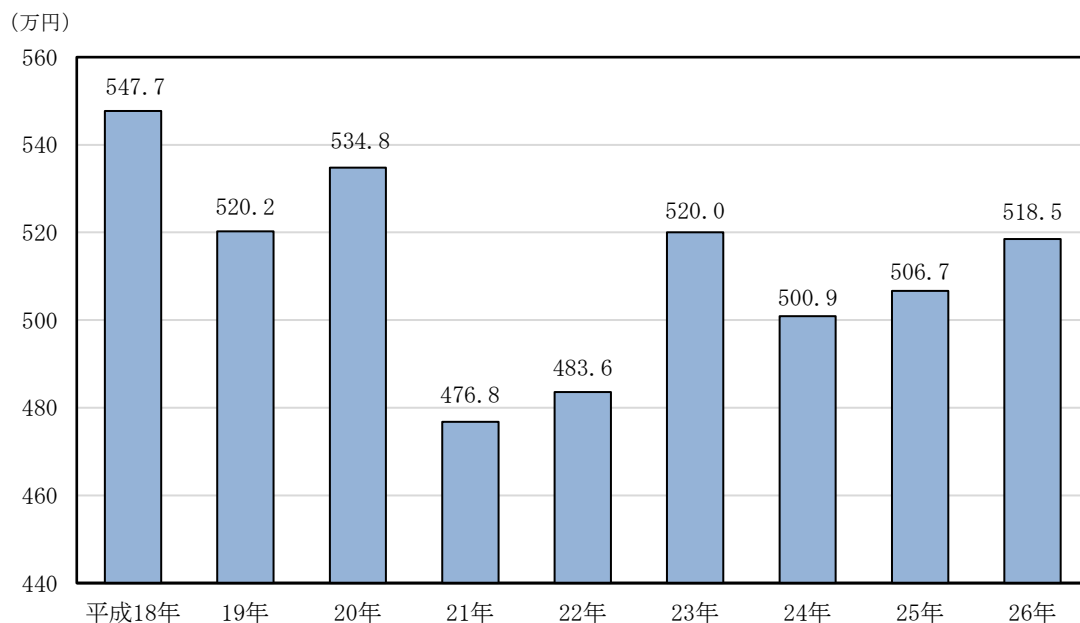
平成 18 年以降の愛知県のロボット製造業の生産額の推移をみてみます。生産額は 20 年までは増加していましたが、21 年には 505.7 億円と大きく落ち込みました。22 年には 1101.5 億円まで増加しましたが、その後は 3 年連続で減少しました。直近のデータである 26 年は、1070.2 億円まで増加しています。(図 2)



資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「平成 24 年 経済センサス活動調査」

最後に、平成 18 年以降の愛知県のロボット製造業従事者の 1 人当たり現金給与総額の推移をみると、最も現金給与総額が高かったのは 18 年の 547.7 万円で、最も低かったのは 21 年の 476.8 万円でした。24 年以降は増加傾向がみられ、直近のデータである 26 年は 518.5 万円となりました。(図 3-3)

図 3-3 1人当たりの現金給与総額の推移(愛知県)



資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「平成 24 年経済センサス活動調査」

○愛知県の取り組み

ロボット産業は自動車産業を始めとした製造業の生産性の向上を支えています。今後はこのような分野に加え、医療や・介護や生活支援など幅広い分野での活用が期待されています。

愛知県は、産業用ロボットを中心に、製造品出荷額等や従業員数で全国 1 位の規模を誇っており、また、県内には自動車等で培った優れたモノづくり技術を持つ企業や、先進的な取り組みを進める大学等が数多く立地しています。

このようなロボット産業の将来性や高いポテンシャルを踏まえ、愛知県ではロボット産業を自動車や航空宇宙に次ぐ第三の柱として育てていくことを目指し「あいちロボット産業クラスター推進協議会」を平成 26 年に設立しました。当協議会を核として、ロボットの開発側と利用側が連携し、新たな技術・製品を創出する施策を実施しています。

また、2020 年には、国が初めて開催する国際的なロボットの競演会である「ワールドロボットサミット」が愛知県国際展示場で開催されます。

愛知県は、この地域を世界に誇れるロボット産業拠点として発展させていく取り組みをしています。